大阪中学校選手権大会 女子決勝リーグ 戦評

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 27 日　A① 10:00～ 会場： 東大阪アリーナ	大阪薫英女学院中学校	11	12	14	16	---	**53**
	豊中市立第十二中学校	7	8	11	7	---	**33**

薫英④⑥⑪⑫⑮、豊中十二④⑥⑮⑯⑰でゲームが始まる。薫英は⑫の 3P を皮切りに、オールコートマンツーマンで激しくディフェンスを仕掛ける。豊中十二はハーフコートマンツーマンで中を固め守ろうとする。豊中十二は⑥のドライブと④のセンタープレイで攻めようとするが、薫英の激しいディフェンスに思うように攻められない。対する薫英は機動力を活かし、ドライブ、外角シュート、オフェンスリバウンドと着実に点を重ね、23-15 の薫英リードで折り返す。

後半、お互いメンバーは変わらずスタートする。3Q の出だしは薫英がゴール下やミドルシュートを確実に決め、豊中十二を突き放す。豊中十二は④の 3P、⑥のドライブで攻めようとするがシュートを決めきることができず、35-19 と薫英が 16 点のリードをとる。3Q の終盤にやっと④⑥のドライブからのシュートが決まり、豊中十二が盛り返そうとしてピリオドが終了。4Q は、お互い④の 3P で得点を決める。少し疲れが出てきたのか、薫英のディフェンスが弱まった隙に、豊中十二がドライブとリバウンドシュートから追い上げを見せる。その勢いでオールコートマンツーマンで逆転を目指すが、薫英は焦ることなく、ボール運びからそのまま得点につなげ、再びリードを拡げる。高さを活かして攻めたかった豊中十二だったが、薫英の激しいディフェンスと素早い動きが勝り、53-33 と薫英が勝利を収めた。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 27 日　B① 10:00～ 会場： 東大阪アリーナ	羽 衣 学 園 中 学 校	25	14	21	15	---	**75**
	高石市立取石中学校	8	16	13	22	---	**59**

羽衣⑤⑥⑧⑨⑩、取石④⑪⑫⑬⑮でスタート。出だしから取石は持ち味である激しいマッチアップゾーンディフェンスを仕掛けるが、羽衣は広い視野と高い判断力でこれをかわす。高さと運動能力に勝る羽衣は⑩のハイポストを起点にハイローや 1 対 1、インサイドアウトからの 3P を決め、3 分間で 11-0。取石はたまらずタイムアウトを取るが流れは変わらず、25-8 で 1Q を終了。2Q も取石は積極的にプレッシャーをかけ続け、羽衣はゴール下のシュートのミスが目立ち始める。取石は④⑮のスピードあるドライブで加点し、反撃のチャンスを窺う。しかし羽衣も⑥の 3P など要所でしっかり得点し、39-24 で前半を終了する。

後半は羽衣⑤⑥⑧⑨⑩、取石④⑪⑫⑬⑮でスタート。羽衣はプレッシャーを掻い潜り、オープンサイドにうまくパスをつないで加点する。しかし中盤、ラリーが続く展開になると、運動量の衰えない取石のディフェンスに羽衣のミスが連続する。14 点差まで追い上げるが、羽衣はすぐに落ち着きを取り戻し、⑤⑧の 3P や見事な速攻で逆に点差を拡げ、60-37 で 3Q を終了。結局 4Q も試合は大きく動かず、76-59 で試合終了。羽衣学園が決勝リーグ第 1 戦をものにした。試合を通して取石のプレッシャーディフェンスとルーズボールの意識は素晴らしかったが、それにもまして羽衣の個々の判断力と高いスキルが目立つゲームであった。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 28 日　A① 10:00～ 会場： なみはやドーム	大阪薫英女学院中学校	17	19	12	14	---	**62**
	高石市立取石中学校	12	3	13	13	---	**41**

薫英④⑥⑪⑫⑮、取石④⑪⑫⑬⑮でゲーム開始。薫英はオールコートマンツーマン、取石はオールコートプレスディフェンスでお互いにしつこくディフェンスをやり合う。そんな中、薫英は⑥の 3P やインサイドアウトのバランス、オフェンスリバウンドなどで効果的に得点を重ねる。一方、取石は④⑮のカットインプレーで両者譲らず、1Q を 17-12 の薫英リードで終了する。2Q に入り、薫英の 1-1-2-1 ゾーンプレスや、取石のカットインに対するカバーディフェンスが機能し、思い切りのよいオフェンスにつなげ、取石を突き放す。取石はオールコートプレスから素早いシュートにつなげる持ち味を発揮できないまま、前半 36-15、薫英の 21 点リードで折り返す。

後半に入り、薫英は前半同様、落ち着いたパス回しと 1-1-2-1 ディフェンスでしつこく守るのに対し、取石も④のカットインや⑬の外角のシュートなどでリズムを取り戻し、一進一退の攻防を繰り広げ、48-28 の薫英 20 点リードで 3Q 終了。4Q も同様に両チーム譲らず持ち味を出し続けるが、そのまま時間が流れ、62-41 で薫英が見事に 2 勝目を挙げた。薫英のバランスの良いパス回しも、取石のボールを追いかける姿勢も本当に素晴らしいものがあった。取石は敗れたものの、ノーシードから勝ち上がってきて決勝の舞台でこれだけの戦いができたことも素晴らしかった。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 28 日　B① 10:00～ 会場： なみはやドーム	豊中市立第十二中学校	13	10	12	14	---	**49**
	羽 衣 学 園 中 学 校	10	13	6	19	---	**48**

豊中十二④⑤⑥⑯⑰、羽衣⑤⑥⑧⑨⑩でスタート。豊中十二はハーフマンツーマン、羽衣はオールコートマンツーマン。羽衣⑨から⑤のバックドアプレイで先制点。豊中十二は⑥がシュートチャンスを逃さず決めて対抗する。両チームともミスが目立ち得点が伸びない中、豊中十二は④のオフェンスリバウンド、羽衣はインサイドアウトからミドルシュートを決め、お互いに譲らない。1Q 終了間際、豊中十二⑱の 3P が決まり、13-10 で豊中十二がリード。2Q の出だし、羽衣⑦の 1 対 1 や 3P が決まり、豊中十二がタイムアウト。その後、豊中十二は④⑥を中心にオフェンスを展開し逆転に成功する。対する羽衣は⑥がフリースローを確実に決め一進一退、23-23 で前半を終了する。

3Q、豊中十二は⑮のスタート起用が成功しリードする。羽衣は外のシュートが決まらず、ドライブを狙うが思うように得点が伸びない。豊中十二はスクリーンプレイで得点を重ねてペースをつかみ、35-29 で 4Q へ。勢いに乗る豊中十二は、⑥から⑰への合わせや⑮の速攻で 10 点差とし、たまらず羽衣はタイムアウト。しかし、豊中十二も譲らず、残り 3 分で 13 点差となる。ここから一転して羽衣がディフェンスからプレッシャーをかけ、豊中十二のミスを誘い、⑨を軸に 9 連続得点。豊中十二はタイムアウトを取るが勢いを止められず、残り 30 秒を切った時点で 48-48 の同点となる。ここで豊中十二⑯がコーナーからドライブを仕掛け、ファウルをもらいフリースローとなる。1 投目は外れるが 2 投目を沈め 49-48 とリード。羽衣はタイムアウトを取り、残り 6.6 秒のスローインとなるが、豊中十二が守り切ってタイムアップ。豊中十二はこの勝利で近畿大会出場への望みをつないだ。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 28 日　A③ 13:00～ 会場： なみはやドーム	羽 衣 学 園 中 学 校	21	15	8	13	---	**57**
	大阪薫英女学院中学校	12	17	18	21	---	**68**

羽衣⑤⑥⑧⑨⑩、薫英④⑥⑦⑫⑮でスタート。羽衣はオールコートマンツーマン、薫英は 1-1-2-1 からのマンツーマンディフェンス。前のゲームを落とした羽衣だが、近畿大会出場の切符をつかむため、ゲーム序盤から猛攻を仕掛け、⑤⑨が積極的にドライブに行き得点をする。対する薫英は、羽衣の勢いある攻撃を止め切れずファウルがかさみ、1Q 残り 5 分で早くもチームファウルが 5 つとなる。2Q に入っても速い展開で攻め続ける羽衣は、⑥⑧を中心に得点を重ねる。対する薫英は⑮⑱で何とか得点を返すも流れは変わらず、前半は 36-29 の羽衣リードで折り返す。

後半が始まると、ディフェンスから流れをつかんだ薫英が⑫⑮⑱の得点で 3Q 残り 4 分、一時逆転する。その後は一進一退の攻防が続き、3Q 終了間際に薫英⑥の 3P が決まり、薫英 3 点リードで最終 Q を迎える。4Q に入って勢いに乗る薫英は、④の 1 対 1 や⑱⑫のリバウンドシュートが決まり、残り 6 分で 9 点リードする。羽衣はたまらずタイムアウトを取るが、その後も落ち着いたゲーム運びと⑮の活躍で、薫英が優勝を決めた。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 28 日　B③ 13:00～ 会場： なみはやドーム	高石市立取石中学校	16	18	19	18	---	**71**
	豊中市立第十二中学校	12	15	18	24	---	**69**

取石④⑥⑮⑯⑰、豊中十二④⑪⑫⑬⑮でスタート。取石はオールコートマンツーマン、豊中十二はハーフコートマンツーマンで互いに守る。サイズで勝る豊中十二は⑰のシュートで先制する。対する取石は激しいディフェンスからの速攻や④の 1 対 1 で得点を重ねていく。一進一退の攻防の中で、1Q は 16-12 で取石がリードして終了する。2Q、取石は激しいディフェンスからミスを誘発し、④⑮が得点を重ねていく。それに対し豊中十二は、④⑮のオフェンスリバウンドやゴール下の合わせで追いかけていく。取石 7 点リードの 34-27 で前半が終了。

3Q、取石④⑪⑫⑬⑮、豊中十二④⑥⑮⑯⑰でスタート。出だし、取石はターンオーバーが続き、34-33 となったところでタイムアウト。その後、取石は④の 1 対 1 や⑫のバスケットカウントなどで加点する。豊中十二も⑰のリバウンドシュートなどでくらいつくが、なかなか差は縮まらず、53-45 の取石リードで 3Q が終了する。4Q、豊中十二④の 3 連続得点でリードを縮めるが、取石④も 1 対 1 や合わせからのシュートで加点する。豊中十二は④⑰のリバウンドや⑥の 3P で、残り 43.5 秒で 2 点差に追いつく。しかし、⑥の逆転を狙った 3P は外れ、取石が 71-69 で勝利した。

大阪中学校選手権大会 男子決勝リーグ 戦評

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 27 日　A② 11:30～ 会場： 東大阪アリーナ	和泉市立南池田中学校	16	17	16	13	---	**62**
	和泉市立光明台中学校	2	9	11	18	---	**40**

南池田④⑤⑥⑧⑨、光明台④⑤⑦⑧⑨でゲームが始まる。お互い④のエースをディフェンスし、ゾーンディフェンスで守りを固める。南池田はハイポストやローポストのスペースに飛び込み効果的に得点をあげていく。光明台はトップから④がドライブしシュートを狙うが、シュートタイミングが早く決まらない。南池田が 10-0 とリードしたところで光明台はたまらずタイムアウトを請求するが、流れは変わらず、16-2 で 1Q を終える。2Q に入っても南池田のインサイドアウトやカッティングプレイが決まり、33-11 とリードを拡げる。

後半、光明台④が得点を縮めようとシュートを放つがなかなか決まらず、逆に南池田は④⑧⑨を中心にゴール下にボールを集め得点を重ねる。しかし 4Q に入り、光明台④のシュートが入りだす。また⑧も得点に絡みだし差を縮める。南池田も⑨のドライブや⑧のゴール下で得点し、光明台④と最後まで意地を見せるが、攻守に勝る南池田が 62-40 で勝利を収めた。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 27 日　B② 11:30～ 会場： 東大阪アリーナ	枚方市立第四中学校	14	11	13	8	---	**46**
	東大阪市立長瀬中学校	8	8	18	13	---	**47**

枚方四④⑤⑥⑦⑧、長瀬④⑤⑥⑦⑧、両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。長瀬⑧のミドルシュートからゲームが始まり、すぐに枚方四⑥のリバウンドシュートで入れ返す。一進一退の攻防が続く。枚方四⑦の 1 対 1 を中心に得点を重ね、14-8 で枚方四のリードで 1Q を終える。2Q は枚方四⑦、長瀬⑦を中心に攻守を組み立てる。その中でも枚方四⑦の 1 対 1 が目立ち、⑥への合わせなどで得点を重ね、18-10 となったところで長瀬が 1 回目のタイムアウト。その後、長瀬はディフェンスをオールコートの 2-2-1 からハーフコートの 2-3 ゾーンディフェンスに切り替えるが、枚方四⑥⑦のシュートでじわじわ点差を拡げ、25-16 の枚方四リードで前半を終える。

後半、枚方四はマンツーマンディフェンス、長瀬はゾーンディフェンスでスタート。長瀬は⑥⑦で得点を重ね、枚方四がタイムアウト。一進一退の攻防が続く。長瀬④のバスケットカウントで追い上げるも、枚方四⑦の 3P シュートで点差を保ち、38-34 で枚方四のリードで 3Q を終える。4Q、一進一退の攻防が続く。長瀬がじわじわと点差を詰め、残り 1 分で逆転に成功する。その後長瀬は 2 点を加え、枚方四の追撃を振り切り、長瀬が決勝リーグで貴重な 1 勝を手にした。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 28 日　A② 11:30～ 会場： なみはやドーム	和泉市立南池田中学校	8	6	11	16	---	**41**
	枚方市立第四中学校	17	14	16	18	---	**65**

南池田④⑤⑦⑧⑨、枚方四④⑤⑥⑦⑧でスタート。枚方四のマンツーマンディフェンスに対して南池田は⑦にフェイスガードのボックスワンで守るが、枚方四⑦のドライブや 3P、⑥のインサイドから合わせのゴール下のシュート、リバウンドシュートで得点する。対する南池田は早いパス回しから⑧のドライブや⑦の 3P で応戦するも、高さで勝る枚方四の前に得点が伸びず、8-17 で 1Q を終了する。2Q に入っても流れは変わらず、枚方四⑩のミドルシュート、リバウンドシュート、⑦のドライブで加点し、8-23 となったところで南池田がタイムアウト。その後⑧の 1 対 1、フリースロー、⑥の速攻で追い上げるも、枚方四は⑥⑦のインサイド、⑩のミドルシュートで点差を拡げ、14-31 で前半を終了する。

3Q に入っても流れは変わらず、高さで勝る枚方四⑥⑦のミドルシュートや、⑥⑩のゴール下で点差を拡げていく。対する南池田も④⑧の 1 対 1 で対抗するがさらに点差が拡がり、25-47 で 3Q 終了。点差を縮めたい南池田は、ディフェンスをマンツーマンに変えてプレッシャーをかける。スティールから⑦の速攻や④の 3 連続 3P シュートで追い上げを図るが、枚方四は落ち着いたパスワークで着実に加点し、65-41 で試合終了。枚方四が近畿大会出場への望みをつないだ。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 28 日　B② 11:30～ 会場： なみはやドーム	和泉市立光明台中学校	7	23	5	13	---	**48**
	東大阪市立長瀬中学校	16	19	16	12	---	**63**

光明台④⑤⑦⑧⑨、長瀬④⑤⑥⑦⑧で試合開始。立ち上がり、長瀬⑥のジャンプシュート、⑦のリバウンドシュートで得点を重ねていく。光明台は④を起点にドライブ、3P で得点していくも、なかなか点が伸びず、7-16 で 1Q を終了する。2Q の出だしも変わらず、長瀬はインサイドを起点に④⑦⑧で着実に得点を重ねていく。対して光明台は 5 分過ぎ、④のディフェンスからリズムをつくり、④のドライブ、ミドルシュート、⑧の 3P と追い上げていき徐々に点差を縮め、前半終了時には 30-35 と 5 点差まで追い上げた。

3Q、光明台のオフェンスに対し長瀬は 3-2 ゾーンにディフェンスを変えると、そこから速攻やアーリーオフェンスからインサイドへと、リズムよく得点を重ねていく。光明台は④を中心に攻めるもリズムに乗れず、シュートも単発で得点が伸びないまま、35-51 で 3Q を終了する。最終 Q、追い上げたい光明台は④がドライブからのシュート、バスケットカウントなどで頑張りを見せ長瀬を追い上げていくが、長瀬も⑦を中心に慌てることなく着実に点を重ねていき、追いかける光明台を振り切り、48-63 で長瀬が 2 勝目を手にした。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 28 日　A④ 14:30～ 会場： なみはやドーム	東大阪市立長瀬中学校	17	12	19	17	---	**65**
	和泉市立南池田中学校	12	9	11	20	---	**52**

長瀬④⑤⑥⑦⑧、南池田④⑤⑦⑧⑨、お互いハーフコートマンツーマンでスタート。長瀬は④⑧のシュートでバランスよく得点を重ねていく。⑦の速攻が決まったところで、南池田がタイムアウト。その後お互いに得点を重ね、17-12 で 1Q が終了。2Q もメンバーは変わらずスタート。南池田は開始早々に⑦がセットプレーからシュートを決め、ディフェンスを⑦にフェイスガードするダイヤモンドワンに変化させた。長瀬⑥が連続でシュートを決め、その後、長瀬④⑦のシュート、南池田④のバスケットカウント、⑦の速攻で得点を重ね、29-21 の長瀬 8 点リードで前半を終える。

後半、長瀬は④⑤⑥⑦⑩、南池田は④⑤⑥⑦⑧でスタート。長瀬はハーフコートマンツーマン、南池田はゾーンやマンツーマンを変えながらディフェンスした。長瀬は④⑦のシュートで得点を重ね、南池田は巧みなパスワークから④⑥が得点する。長瀬⑦の速攻が決まったところで南池田がタイムアウト。ここで長瀬はオールコートマンツーマンディフェンスに変え、④⑦のシュートで 48-33 と大きくリードを拡げ、3Q を終了する。4Q、南池田は④⑧のシュートで得点するが、長瀬はここでタイムアウト。その後息を吹き返し、速攻でリードを拡げる。終盤、南池田は④の 3P や速攻で意地を見せるが、65-52 で試合終了。長瀬が 3 戦全勝で優勝を決めた。

		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Final
平成 26 年 7 月 28 日　B④ 14:30～ 会場： なみはやドーム	枚方市立第四中学校	16	18	18	13	---	**65**
	和泉市立光明台中学校	6	11	6	17	---	**40**

枚方四④⑤⑥⑦⑧、光明台④⑤⑦⑧⑨でゲームが始まる。両チームともに相手の持ち味を封じるゾーンをからめたディフェンス。序盤、枚方四は攻めあぐねるが、インサイドを中心にオフェンスを組み立て点を重ねる。対する光明台は④の 1 対 1 で攻めようとするが、⑥⑦のブロックに苦しみ得点できない。16-6 と枚方四のリードで 1Q を終了する。2Q も、1Q と同様にお互いディフェンスは変則的な形でスタートするが、やはり枚方四はインサイドを中心としオフェンスを組み立て、⑥が立て続けにゴールを奪う。光明台も 2Q 終盤、④のミドルシュートや⑧の 3P で得点を重ねるが、前半は 34-17、枚方四のリードで終える。

後半に入ると、枚方四はさらにインサイドを中心に攻撃を組み立て得点を重ねる。特にこの試合、枚方四⑥が圧倒的な存在感を見せ、リバウンド・得点ともにリング下を支配する。光明台も④を中心に相手のディフェンスを切り崩そうとするが、枚方四の高さと固い守りに最後まで苦しめられ、終わってみれば枚方四が光明台を 65-40 の大差で勝利を収め、枚方四が近畿大会の出場権を手にした。